

「深層学習時代の計算言語学」 クロージング

いくつかの論点

- 深層学習は認知モデルか？ (大谷、大関、大羽、江原、持橋)
- 技術を道具として使う (宮川、北崎、上田、大羽、内田、森下、野口)
- お互いに相手に期待しすぎ／相手を恐れている？ (永田、大谷)

研究文化の違いをお互いにappreciateしよう

- NLP研究者: 「言語学者に怒られたらどうしよう」 (永田)
- 言語学者: 「NLP研究者に怒られたらどうしよう」 (slackの投稿)
- ビクビクしすぎでは？ (内田) – **好奇心**を大事にしよう！ (鈴木)
- 突撃 (大羽)、深層学習で両分野は再接近？ (小木曾)

解けていない問題、見落とされがちな視点

- 浅いsyntaxや意味のベクトル表現のようなものを越えた言語に関する**抽象的な知識**のモデリングはできるか？ (黒澤、森下、内田)
- 言語＝テキストではない (持橋)

日本語文法学会第24回大会シンポジウム 「意味論研究の新地平（仮）」

- 日時: 2023年12月3日（日）午後
- 場所: 関西大学
- コーディネータ・司会: 窪田悠介 (国語研)
- 講師1: **峯島宏次** (慶應大)
- 講師2: **大谷直輝** (東京外大)
- コメンテータ: **三宅知宏** (大阪大)

趣旨:

自然言語処理の発展で意味研究が新たな局面を迎えている。この状況に鑑み、形式意味論と認知言語学の立場から意味の問題に対する学際的な研究に取り組んでいる講師を迎え、意味の研究の、日本語文法 (そして、より広く言語学) 中での位置づけを考え直し、隣接分野との接点がどこにあるかを整理する。

